

第4学年 音楽科学習指導案

指導者 鹿角市立十和田小学校 佐々木 麻実

1, 題材名 様子を思いうかべて ～聴いて！わたしたちの「つるのおん返し」～

2, 題材の目標

(1) 拍子の違いや旋律の特徴などを感じ取って、聴いたり表現したりすることができるようにする。

(2) 楽曲の気分を感じ取って、想像豊かに表現したり聴いたりすることができるようにする。

3, 教材

「おどろう楽しいポーレチケ」(小林幹治作詞、ポーランド民謡)

「まほう使いの弟子」 (デュカース作曲)

「つるのおん返し」 (平井多美子作詞、橋本祥路作曲)

4, 児童と題材

- 男女とも、音楽が好きだと話す子どもが多く、意欲的に音楽活動に取り組んでいる。きれいな声で歌ったり、クラス全員での合奏へ積極的にチャレンジしたりしている。演奏発表への意欲も旺盛である。これまでの学習では、授業のウォーミングアップにリズム遊びを取り入れてリズムリレーを楽しんだり、いろいろな楽器に親しんで合奏に取り組んだりしてきた。また、「いろんな木の実」では、音符カードを組み合わせることで曲の雰囲気やリズム伴奏を考えたり、曲に合った音色の楽器を選んで演奏したりする活動に取り組んだ。授業後の感想からは、自分たちで音楽をつくるのがとても楽しかったという子どもが多かった。だが、もっと楽しくなるように工夫できなかったのが残念だという感想ももっていた。
- これらの教材は、音楽の雰囲気や変化から、曲想を感じ取って、自由に様子を思い浮かべたり歌い方などの表現を工夫したりすることができる楽曲である。「おどろう楽しいポーレチケ」は、4節までの歌詞の内容が分かりやすく、情景をとらえて歌いやすい。また、3拍子を生かして、拍の流れに乗って身体表現も楽しむことができる。「まほうつかいの弟子」は物語性のある詩をもとにつくられていて、音楽はこの物語の内容に沿うようにして展開していく。そのため、教科書の挿絵と比べながら興味深く聴くことができると思われる。「つるのおん返し」は、話のあらすじが歌詞で表現されているので、場面を想像しやすい。また、子どもたちに親しみのある昔話であるので、歌詞に描かれていない事柄についても自由に思いを巡らし、子どもたちの豊かな想像を、歌や音楽に生かして表現できる教材である。
- 本校ではインターネットテレビ授業を行っている。その学習形態の一つに、他校との共同学習があるが、遠隔地の相手と音声や画像で情報を交換できる点で、子どもたちに非常に好評であった。交流すること自体が子どもの学習意欲を高めているとも言える。今回の題材では終末が音楽劇の発表であるので、子どもたちの実態から是非活用したいと考えた。また、相手校との交流を通して、様々な表現方法があることに気付かせていきたい。表現方法では大きく分けて、【歌い方の工夫・音をつくって表現する・朗読の工夫】と3つの点について取り組ませていきたい。歌の工夫については、曲想をつかむためにも全員で取り組み、歌詞から十分に雰囲気を感じ取らせていきたい。音をつくって表現する活動と朗読の工夫については、場面ごとのグループに分かれて行う。効果音づくりや間奏をもとに工夫した音楽づくりなど、自由な発想で取り組ませていきたい。本時では、相手校との中間発表会を行い、観点をもとに自分たちと相手のよいところを感じ取り、最後の発表に生かせるようにしていきたい。

5 , 指導計画 (総時数 10 時間 本時 8 / 10)

次	時	おもな学習活動	教材
1 次	1 2	・ 3 拍子の特徴を感じ取って、楽しく斉唱をする。 ・ 情景を思い浮かべ、強弱や速度を工夫して歌ったり、身体表現を工夫したりする。	おどろう楽しいポーレチケ
2 次	3 4 5 6	・ 曲想の変化を感じ取って聴き、思い浮かんだ様子や情景などを話し合う。 ・ 物語の各場面を想像したり、オーケストラのいろいろな楽器の音色や重なり合う音の響きを味わって聴く。 ・ 栄小学校とのオリエンテーションを通して、共同学習のめあてが分かる。親しみのある民話をもとに楽曲の気分を感じて積極的に表現したり聴いたりする。 ・ 場面の様子にふさわしい歌い方や朗読、セリフの話し方を工夫する。	まほう使いの弟子 つるのおん返し
3 次 (本時)	7 8 9 10	・ 物語の場面に合う音をイメージして、音や音楽をつくる。 ・ つくった音や音楽を中間発表して、相互評価する。(栄小との共同学習) ・ 相互評価をもとに、つくった音楽を修正する。 ・ 自分たちで工夫した「音楽でつづる物語」の発表会をする。(栄小との共同学習)	

6 , 評価規準

- (1) 音楽の特徴をつかんで、様子を想像しながら聴いたり、表現しようとしていたりしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 場面にふさわしい音や表現の仕方を工夫している。
(感受・表現の工夫)
- (3) 拍子の特徴を生かして身体表現したり、場面に合う音楽をつくって表現したりすることができる。
(表現の技能)
- (4) 曲想を感じ取って、場面を豊かに想像しながら聴くことができる。
(鑑賞の能力)